



るうてる



2020年
3月
No.867

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教 「キリストを知る」

日本福音ルーテル羽村教会牧師 高井保雄

「しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。」(フィリピの信徒への手紙 3:7-11)

「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。(口語訳)(ヨハネ8:32)」というキリストの言葉を、記憶の方も多しと思えます。若い頃何よりも自由を渴望していた私はひたすらこの言葉に感激していたわけですが、やがて社会の現実を生きる中で、「自由への道」を諦めかけた時、今思えば神様の導きであつたと言ひしかなかったので、神学校へ進む道が開かれたのです。

神学校に来てみると、そこで頻出する「罪と罰」「契約」「律法等の神学用語は、

法学部出身の私にはほぼ馴染み深かったのですが、ただ聖書の示す「真理」概念は、それまでの自分の「真理」理解とは大きく異なるものでした。

現代に生きる私達は、ほとんど無意識の内に、西洋近代において発達した科学的「客観性」を「真理」の基準であると考えています。そこでは宗教学論など人間の主観性を帯びる議論などは、どこか胡散臭いと思われがちです。ところが、聖書の「真理」概念は、古代旧約聖書へブライ語の語感の影響のため、極めて宗



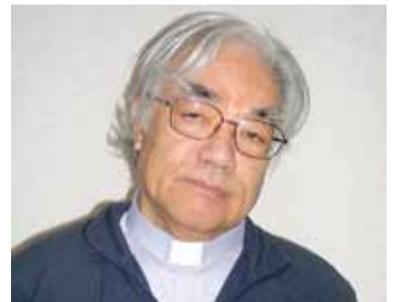
SIGNORELLI, Luca
Christ and the Doubting Thomas
1477-82 - Basilica of Santa Casa, Loreto

教的倫理的色彩の濃い「人格的」概念であると言われているのです。

ヨハネによる福音書14の「恵みと真理」とは「めぐみとまこと」とに満ちていた。「真理」を「まこと」と訳しています。

日本語の「まこと」は「真理」の意味に加えて「誠」という人格的、倫理的な意味を含んでいて、ブライ語の語感と同じです。この方が聖書の「真理」の本来の意味内容に相応しい訳だと思ふのです。

同様に注目したいのが「わたしは道であり、真理であり、命である。(ヨハネ14:6)」というキリストの言葉です。ここに出てくる「道」と「真理」と「命」は言うまでもなく、別々の三つの概念ではなく、一体のものとして捉えられなければなりません。キリストは、明確に「わたしは道であり、かつ同時に真理



かつ同時に命である。」と言われているからです。この「道」と同時に「真理」に命であるキリストをどう理解すれば良いのでしょうか。

聖書は、ここからもう一段「人格的概念」から更に「世界的」な広がりをもつたかたちのキリスト論を展開しています。それがパウロの「(キリストの)体」の思想です。

パウロは生前のキリストを知りませんでした。復活のキリストの体」の神学によつてキリストを論じます。今日の私達が信徒の交わりや個々の教会間のつながりを、一つの「キリストの体」として捉えることができるのは、この思想によるのです。

更にパウロは1コリント15:40で「天に属するからでもあれば、地に属するからでもある。(口語訳)」として、この「キリストの体」は宇宙論的な世界と広がりをもつことを述べています。このことは、現代の地

球環境問題を「キリストの体」の立場から考察することを私達に促しているように思ふのです。

ところで、復活のキリストの体にはなぜ傷があるのでしょうか？それは第一に復活を不可分の事柄として結びつける「しるし」であるわけですが、同時に、私たちの個々の現実の弱さや痛みや傷の存在が、実は「キリストを知る」とへの「道」として備えられているのだということを示されるためではないでしょうか。パウロが自分の肉体の棘を取り去つて欲しいと願った時、主は、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあられる。(口語訳)(2コリント12:9)」と言われたのも、やはりパウロの傷は、実は彼の傷がキリストを知るための「恵みの道」であることを示されるためだったのだと思ふのです。

今、私たちの生きる世界環境は大きく傷ついています。それが「傷ある復活のキリストの体」であるなら、私達は、もはや自分自身の弱さや傷を嘆くのではなく、この世界に参与することを通して、更に「キリストを知る」ことを求める者でありたいと思ふのです。



④さあ、行って、弟子たちとペトロに生けなさい。『あの方にはあなたがたより先にガラリヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかけられる』。(マルコ16:7)

クラスの子と進路を考える面談をしていた時のこと。「先生、俺には何もないんだよ」と言った生徒がいました。その日の面談では結局まとまらず、どうしたものかと心にひっかかっていました。

しかし数日後、そつと近寄りてきて「先生、進路決めたよ俺は、誰かのために生きることにした」と教えてくれました。自分のための努力は苦手だけれど、誰かのためとなれば頑張ることができた自分に気付いたというのです。もしかしたら、いかに生きていくかを考えることは将来を考えると同時に、実は原点を探

すことでもあるのかもしれない。大切なことを生徒を通して教えられました。そして誰かのために生きる、そう決心したこの生徒は今、障害者福祉の道に進んでいます。

そういえば、今は教師のわたしにも原点がありました。大学生の頃インドのエイズホスピスでボランティアをしたとき、現地の保健師さんに「大人に伝えても社会は変わらない。でも子どもに伝えたら社会は変わる。あなたも教師にならないの？」と言われ、教師という仕事を考え始めました。

わたしたちのキリストも墓に留まらず、冒頭の言葉通りガラリヤで弟子たちと再会しました。わたしたちも「わたしにとつてのガラリヤ」でキリストと出会い、約束したその原点に立ち帰ることで未来を描けるのかもしれない。あなたにとつてのガラリヤはなんですか？わたしたちと与えられたそれぞれのガラリヤでキリストに出会い、希望のうちに歩む者でありたいのです。

TNGみことばカード 2021年度イラストレーター ボランティアスタッフ募集中!

TNG子ども部門では、CSみことばカードのイラストレーターを募集しています。あなたのタラントを生かして、教会学校や信仰の継承のために働かせませんか？

応募締切 2020年3月末まで
詳細は <http://the-next-g.blogspot.com/> をご覧ください。



「ハラスメント防止への取り組み」

事務局長 滝田浩之

今年の第5回本教会常議員会で「ハラスメント防止規定」が承認されました。これを受けて事務局としては「ハラスメント防止パンフレット」を作成し、相談窓口について、またハラスメントがあった場合の解決の道筋についてお知らせしたところです。ハラスメントは、事柄が起きて対応する体制を整えることはもちろんですが、本来、教会が「慰めの共同体」である限り、これが起きない体制にすることは非常に大切です。

今後、各教区、各地区、各教会で取り組みや学びが深まることを何よりも期待しているところで、また教会だけでなく、今回の規定は、関係法人(付属幼稚園、保育園、関連法人)独立した社会福祉法人、学校法人、また教会の行う災害支援活動キャンプにまで及ぶことが大きな特徴です。

行政からの指導があっても、小さな保育園や幼稚園では、これに対応できない悩みもあり、今回、教会がハラスメントに対して積極的に行動を起こして、止めてくださっていることは感謝です。ハラスメントの認定、裁定について、教会という第三者組織、特に今回の規定で裁定を行う委員会は専門家からなる、より客観性の高い構成員で対応する体制になっていくことも好意的に受け止められていることと喜ばしいことだと思います。「ルーテル・ファミリー」として、この防止に努めていきたいと願っています。

東教区では、首都圏牧師代議員会で学びの時を持つてくださることに、また東教区女性会会長会、相談窓口であるフェミニスト・カウンセリング東京から講師をお呼びして学びを行う予定のことです。フェミニスト・カウンセリング東京は本教会と業務委託契約を結びましたが、この契約の範囲内で交通費の支弁さえあれば、どこにでもハラスメント防止のための講義を行うことができます。

2月の本教会常議員会でも時間をとって、今回の「ハラスメント防止規定」に基づいた研修を持つ予定です。問い合わせは事務局までお願い申し上げます。

東教区では、今年度の「ハラスメント防止規定」の制定を求め、全国キリスト教連絡協議会(に改称)・日本福音ルーテル教会は2018年より「外キ協」に教派として参加するようになりました。

34回目となる今年度の全国集会は「共生への新しいチャレンジ」隔ての壁をこえて」という主題で1月31日に在日大韓基督教会名古屋教会を会場に開催されました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

「外国人住民基本法」の制定を求める第34回全国キリスト者集会報告

李 明生 (田園調布教会牧師)

全ての人の命の尊厳が守られ、共に生かし合う社会を目指して、日本キリスト教協議会(NCC)の加盟諸教会・諸団体にさらにカトリック教会、日本キリスト教会も加わって、在日外国人の人権を守る取り組み「外登法問題」と取り組む全国キリスト教連絡協議会(略称:外キ協)が1987

年以來続けられて来ました。2012年からは、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(に改称)・日本福音ルーテル教会は2018年より「外キ協」に教派として参加するようになりました。

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

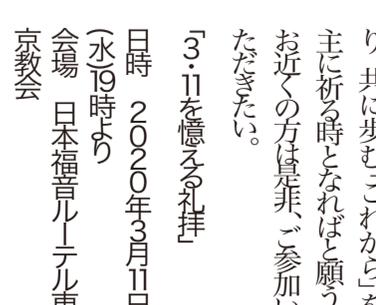
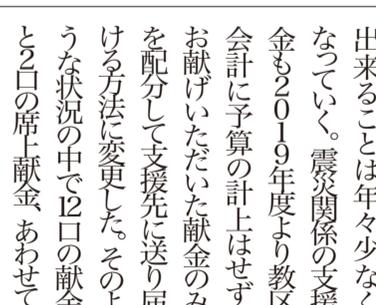
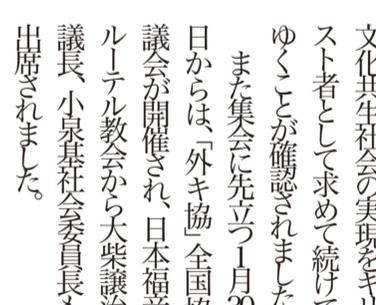
もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を

もとの「敵意の壁を取り壊す」と題してメッセージが語られました。第一部の礼拝では、澤澤 郎主教(日本聖公会中部教区)によってエフェソの信徒への手紙2:14-19を



東教区プロジェクト3・11 3月11日を憶えて

小泉嗣(千葉教会牧師)

最近楽しみにしているテレビドラマがある。「心の傷を癒すということ」という阪神淡路大震災の際に精神科医として現場で生きた安克昌氏の同名の書籍がもとになったドラマである。放送時間が土曜日の夜ということ、また他の理由もあり、日曜日の夜に観るようになるのだが、子どもたちが眠ったあと、一人静かに画面を見つめる。近親者が亡くなったわけでも、大げがをしたわけでもないが、あの日、あの時、あの場にいる者として、痛みや苦しみが湧き起ってくる。しかしそれでも見つめ続ける。あの日、あの時を、あの日から続く今日を、あの場で生きる人たちがいるということを感じておくために。

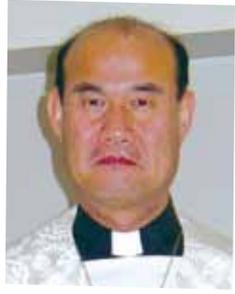
東教区プロジェクト3・11はプロジェクト開始から6年を経過した。当初集まったメンバーも少し入れ替わり、またそれぞれの立場も変わり、出来ることは年々少なくなっていく。震災関係の支援金も2019年度より教区会計に予算の計上はせず、お献げいただいた献金のみを配分して支援先に送り届ける方法に変更した。そのような状況の中で12口の献金と2口の席上献金、あわせて26万5223円が支援金として献げられ、「いわき放射能市民測定室たらちね」いわき食品放射能計測所の「夏休み北海道寺子屋合宿」福島移住女性支援ネットワークEYWA「キッズケアパークふくしま」松本こども留学にそれぞれ送ることができた。感謝である。また昨年秋には、元ルーテルとなりびと専従の野口勝彦牧師と共にプロジェクトのメンバーが宮城県元支援先等を訪問することができた。あの日、あの時から続く日々を生きている人々との交わりが私たちにもたらす気づきと示しは小さくない。

もちろんではあるが、あの日、あの時から続く日々は「被災地」に限ったことではない。私たちがまた、それぞれの地で、それぞれのあの日の時から続く日々を生きている。そして今年も東教区プロジェクト3・11は3月11日に「3・11を憶える礼拝」を守る。礼拝当日が平日と異なるとあり震災発生時刻の開催ではないが、各々の「あの日あの時」を振り返り、各々の「あれから」を持ち寄り、共に歩む「これから」を主に祈る時となればと願う。お近くの方は是非、ご参加いただきたい。

「3・11を憶える礼拝」日時 2020年3月11日(水)19時より 会場 日本福音ルーテル東京教会

定年教師挨拶

鈴木英夫



3月末に引退。技術者生活の後、献身・授教。43歳で教師に加えられる(John.3:8)。

出発はオウム事件や阪神淡路大震災で混乱の年。二鷹の地に一礼し、任地を指すもJRは未だ混乱の中。バスの振替輸送も経て、夕方、福山駅着。大柴師が迎え下さる。

室園では着任早々伴侶を迎え、新ステージへ。創立記念会堂合志教会献堂や学校聖書教諭等、宣教資源豊かな熊本地区を体験する。

松本・長野では雪国の教会兼任に苦勞する。雪かき、冬用タイヤを初体験。厳冬の飯綱ロッジでの葬儀では教会往復の度に、「ボクシシテルナー」を実感。余暇、百名山も忘れず。

拳母では「幼児教育・保育」に関わる。これは誠に楽しい。建物の老朽化

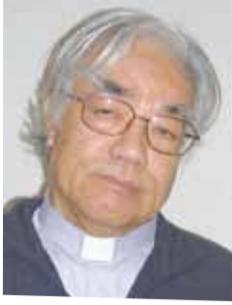
と認定こども園化に伴う教会・幼稚園リニューアルは力仕事となったが、神様に支えられ完了する。

西条・三原では「賜った恵みをお返しする」最後の3年間となった。

我がモットーは「碇泊の港を持たず」。パウロの如く定住せず宣教し、招聘ある所には迷わず赴く。それで良かった。係わった諸兄弟姉に感謝します。

第三の人生。主の僕として歩みながら、飽く無き探求心を持ち続け、我が道を往く。「ONE・ルーテル」での健闘を祈りつつ。

高井保雄



この度、日本福音ルーテル教会牧師としての39年間の牧師生活を終えることとなりました。その間、西宮教会に9年、ドイツのライプツィヒに2年留学、久留米教会に2年、八王子教会に8年、羽

村教会と羽村幼稚園に18年お世話になりました。いずれの地にあつても、主の恵みの下、良き師良き友、良き隣人との交わりを与えられ、振り返れば唯々感謝あるのみです。思い出深いのは、西宮教会の会堂建築でした。場所は川縁の元沼地だったため、基礎杭を10m打ち込んでも、岩盤に

迫り着かないのです。この辺りは千年間大地震が無いと言われたり、高さ10mの会堂建築ならそれで十分と思ったりしたのですが、聖書に「岩の上に家を建てよ(マタイ7:24)」とあり、結局20m杭打ちをして「岩の上に建てた」のです。その8年後、阪神・淡路大震災が起り、ガラス一枚割れなかつた教会は救援活動の拠点として役立つことを聞きまし

た。あの時、聖書に聴いていなければどうなっていたか。正に「神の慈愛と峻厳(ローマ11:22)」を見る思いでした。

中川俊介



本郷教会出身のわたし

は、米国留学から帰国後、丹澤先生、栗原先生のもとで研修し、1983年に按手を受け、別府教会に赴任しました。そこでは6年間牧会しました。児童養護施設、の平和園があつて活気がありました。次の赴任地は板橋教会でした。初めて訪問した時に独自の松隈先生がお手拭きを出してくれました。汚れているので驚くと、先生は「心配しないでください、洗ってあります(笑)」と言いました。排ガス規制のない当時の板橋は洗濯物が黒ずむくらい交通量の多い場所でした。その後、ルーテル教会を離脱し、千葉県印西市で12年間開拓伝道しました。困難でしたが、妻の尽力もあり4人の子供たちも元気に成長しました。その後、ルーテルに復帰させていただき、八王子教会で13年間牧会しました

が、社会福祉施設の「あけぼの会」が伝道の大きな助けとなりました。退職に際し、母教会の方々の励ましとお支え、歴任した教会の信徒の方々、先輩の先生方に心から感謝します。ただ一つの心残りは、ルーテル教会の伝道力が弱いことです。会社でも団体で

も人に喜びを与え得ない組織は衰退します。次の世代の教職には、福音の喜びを今以上に伝えてほしいと願っています。

黄大衛



あつと言う間に定年を迎え、横須賀教会、東京教会、板橋教会、鹿児島教会の牧師として12年間、その後九州ルーテル学院大学・認定こども園ルーテル学院幼稚園のチャプレンとしての11年間の働きが終わります。これから新しい歩みが始まります。私の性格の故か、慣れた生活を一旦変えようとする、すごく不安になります。

さて不安について、私はいつも面白く考えていました。もし何も計画しないなら、未来に不安を感じるのには当然のことですが、一方予め周到に計画しても、周到であるほどまた、不安の気持ちを抑えられませぬ。これは不思議です。人は結局不安を大なり小なり感じて生きています。そんな私たちにイエスはこう励ましています。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」と。この言葉は神様に頼る必要性を示しています。

さて、かつて私は「牧師になつて多くの人に伝道したい」と夢を描きました。そして今「23年間何ができたのか」と実りの少なさを想いいます。しかし用いてくださった神様に感謝して、牧師としてやはりイエス様の平安に向き合いたいのです。

松田繁雄



いつの間にか70を越え、いつの間にか定年退職をする、これが今の実感です。私は、それこそ団塊の世代に生まれ、全共闘の時代の余波の中をくぐってきました。国際基督教大学という紛争の辺境で、田川健三氏の教えを受け、却つて

聖書の奥深さに気付き、これに聴くという姿勢を身につけたように思います。どこかで、キリスト教世界を変革していきたい、という不遜な心を若気の至りに持ちながらも、学ぶに従いイエスの存在に引き込まれていったのです。こういう私でしたが、迷いつつも献身の決断をし、按手を受けて初めて遣わされた教会が、信州の松本教会でした。小さな群れでしたが、つたないなりに、牧師としての責任を負い関わっていた。それを覚えた時間でした。少ないなりに多士済々の信徒さん方と、真剣勝負のお付き合いをする、その際に、まず「聴く」という事ができなければ、伝うことも何も無い、ということも学びました。その後、約2年の米国留学を経て、静岡教会、釧路教会、本教会広報室、東京教会、小岩教会と歩みを重ねてきました。どこに行つても、これは大切だな、と思える体験をしました。そして、そういう出会いを通じて、主に従うこと、人の心を聴く事の大切さを学んできました。あつという間の40年でもあり、重い歩みのぎつ

しり詰まった40年でもありました。終わりに当たり、出会えたすべての人に感謝をささげたいと思います。

公 告

この度左記の行為を致しますので、宗教法人法第23条の規定に基づき公告致します。

2020年3月15日
宗教法人 日本福音ルーテル教会
代表役員 大柴讓治
信徒利害関係人 各位

(一) 牛津集会所 土地売却
所在地 佐賀県小城郡牛津町字杉籠

所有者 日本福音ルーテル教会
地番 5633番2
地目 宅地

地積 331.06㎡
理由 売却のため

(二) 大岡山教会 古屋解体と園舎建設
所在地 大田区南千束3丁目
所有者 日本福音ルーテル教会

地番 360番13、14
建物 古屋3棟
理由 幼稚園事業拡大のため